

トロント留学だより

The Hospital for Sick Children
University of Toronto

小川 博司

(札幌東徳洲会病院脳神経外科)

2019年7月からカナダのオンタリオ州にあるトロント小児病院(The Hospital for Sick Children: SickKids)の Dr.Otsubo 研究室でてんかんの研究に従事しています。

近年、脳波はデジタル解析が進歩しており、低周波から高周波まで様々な帯域の周波数解析が可能となっています。デジタル脳波解析では、脳波の波形を変えることや数値化して評価することが可能なため、多くの情報を取り出すことが可能です。一般的に脳波の解読は難しい印象であり、専門医などの限られた人たちが行っているのが現状です。そのため「主観的」な評価になりがちですが、視覚化や数値化することで「客観的」な評価が可能になることが期待されます。難しいと考えられている脳波が、多くの人々にわかりやすく、そして、面白いものだと思ってもらえるようになれば嬉しいと考えています。

研究のほかに、毎週開催される「てんかんカンファレンス」では神経内科、脳外科、放射線科、臨床心理士など職種を越えた症例検討会が行われ、臨床の様子についても学ぶことができます。また、抄読会も定期的に行われており、様々な領域の最新のトピックについても学ぶことができ幅広い知識を習得することができます。

トロントは「人種のモザイク」と言われるように、多様な国籍の人々が移住している都市です。そのため、人種を越えて多くの交流ができるところが魅力的です。英語も各方面の「なまり」が混在しているので、「ジャパニーズイングリッシュ」も英語として確立していると実感できます。治安も良いため子供たちも安心して暮らせます。周囲への気遣いをしてくれる優しい人ばかりで、電車やバスではすぐに子供たちに席を譲ってくれます。こうしたお互いを助け合う姿勢には感銘を受けます。その背景には「家族を大切にする」という文化があるのかと感じます。「家族は一番小さな社会」と称されるように、家族仲が良いことが一般社会への素敵な姿勢へとつながるのではないかと考えさせられます。

トロントには“Toronto Maple Leafs”というNHL（アイスホッケー）のチームがあります。私は大学時代にアイスホッケー部に所属しており、NHLは夢の舞台でした。冬には念願のNHL観戦ができて感無量です。個人的にも病院内のアイスホッケーチームに所属して、研究の合間に氷上での異文化交流を楽しませていただいております。アイスホッケー以外にもNBAのRaptors、MLBのBlue Jaysがトロントで活躍していますので、スポーツ好きには絶好な環境です。

このような貴重な機会を与えていただいた上原記念生命科学財団の関係者の方々には心よ

り感謝申し上げます。また、留学の機会を与えていただいた大坪先生ならびに大学医局の先生方に御礼申し上げますとともに、生活を支えてくれた妻、長女、長男に感謝の意をここに表します。